

ディスカバー農山漁村の宝有識者懇談会概要

1. 日 時：平成 29 年 11 月 22 日（水）16：40～17：05
2. 場 所：総理官邸 3 階南会議室
3. 出席者：菅内閣官房長官、齋藤農林水産大臣、梶山内閣府特命担当大臣（地方創生担当）、西村内閣官房副長官、杉田内閣官房副長官、古谷内閣官房副長官補、住澤内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）、荒川農村振興局長
林座長、今村委員、田中委員、永島委員、藤井委員、三國委員、向笠委員、横石委員（欠席：あん委員、織作委員）
4. 概 要：
 - 林座長から開会挨拶
 - ・ 前回の有識者懇談会において、全国から 844 件の応募があった中から 31 地区を選定した。
 - ・ 本日は、この 31 地区について、委員の皆様でグランプリ及び 5 つの特別賞を選定したい。
 - 菅内閣官房長官から挨拶
 - ・ ディスカバー農山漁村の宝有識者懇談会にあたって一言御挨拶を申し上げる。
 - ・ 安倍内閣においては、農業の成長産業化を進めており、農山漁村の振興を図ることは、成長戦略、地方創生にとって、重要な柱の一つと位置付けている。
 - ・ 今年度は昨年度を大きく上回る 844 地区もの応募があったところであり、既に選定された 31 地区は、いずれも、地域の特性を生かし、理想と情熱を持って、その地域ならではの発想で農山漁村の活性化に取り組んでいる事例である。
 - ・ 本日は、特に優れた取組であるグランプリをはじめ、5 つの特別賞が決まるということで、毎年こうした優良事例が全国に広がり、地域の前向きな挑戦や創意工夫が一層引き出され、意欲ある農林漁業者が夢や希望を持てるような、農業の成長産業化、そして魅力あふれる地域づくりが進んでいくことを期待する。
 - 齋藤農林水産大臣から挨拶
 - ・ ディスカバー農山漁村の宝の応募件数は、毎回、回数を重ねるごとに毎年着実に増加しており、全国的な機運の高まりを実感している。有識者懇談会の委員のみならず、みなさまにおかれては、これらたくさんの応募に対して厳正に審査、選定の労をとっていただき、改めて厚く御礼を申し上げます。

・前回の有識者懇談会においてご意見のあったグランプリ受賞地区の海外見本市への出展につきましても、詳しくは事務局から説明をさせますが、農林水産省において、出展に向けた準備を進めているところである。

・本日は、前回選定したその地域ならではの発想で農山漁村の活性化に取り組んでいる 31 地区の中から、グランプリと 5 つの特別賞を決定したい。グランプリの取組はもちろんだが、このような全国の優良事例を積極的に横展開することを通じて、農林水産業の成長産業化と農山漁村の活性化につなげていきたいと考えている。

○ 梶山内閣府特命担当大臣（地方創生担当）から挨拶

・ディスカバー農山漁村の宝は、今回 4 回目の選定となり、前回の懇談会において 31 地区の優良事例を選んでいただいたところ。

・我が国が直面している人口減少に歯止めをかけ、そして少子化、高齢化という構造をしっかりと克服して、地方が成長する活力を取り戻す、時代の変化に対応して地方を創生する、その延長線上で日本を再生する。こうした地方創生の取組を進めるにあたって、地方の中核的な産業である農林水産業や農山漁村が有する潜在力を最大限に引き出すことが必要である。

・本日決定されるグランプリや特別賞受賞地区のみならず、ディスカバー農山漁村の宝として本年選定された 31 地区全ての取組は、まさに「地方創生」のモデルであると考えている。

・横展開、全国展開していくわけだが、それに加えて、それぞれ地域の特色を一味加えていくことによって、好循環が生まれるのではないかと。

（荒川農村振興局長から、資料に基づき、グランプリ及び特別賞の選定並びにグランプリ地区の海外見本市への出展について説明。その後、委員からいただいた主な御意見は以下のとおり。）

・受賞した地区は、地域の宝物である山椒やジビエや景観などを上手に掘り起こして賞品としてどう見せるか、ストーリーづくりまでしてブランド化している点。インバウンド戦略や海外市場への積極的な展開に SNS を有効利用している点。地域興しは将来性や連続性が重要であるため、次世代のリーダーの育成をしっかりとしている点。この 3 点について、すごくいいなと感じて、今回選ばせてもらった。今後も、この 3 点を上手く実施する地区が長く続けていける地区だと思うので、自分もその視点で地域振興に尽くしていきたい。

・今回、グランプリに選ばれた地区は、非常に良い顧客の声を聞く仕組みを持って

いることが数字にも出ているわけだが、更に発展させるような取組があったので、是非、参考にして欲しい。また、地域の取組は、日々変化をしており、それが進化していくことになるので、特別賞が増えることも、発展していく証拠ですごく良いことだと思う。選ばれた地区を見てみると、「100年後も素晴らしい」とか「みんなが主役」とか、ネーミングが素晴らしい。これは、そのまま雑誌のタイトルやテレビの番組欄に使えるようなものだ。地域のネーミングやスローガンみたいな目指す姿を提示されると、自分自身が特技を生かして地域に貢献しようとするきっかけにもなるので、この仕組みは素晴らしいと思う。本日の表彰式は、自分達の取組を総理や大臣にアピールしたいという気持ちと同時に、他の地域の取組を見て新たな発見をするきっかけになると思う。その意味では、先程の海外見本市への出展は、外に向けての更なる磨き上げになるので、ディスカバーを発展させる要素にもなるのではないか。

・毎週マルシェを開催したり農業者の取材をしたりすると、今、現場に若者が増えてきていると感じる。今度、ディスカバーで意欲のある若い農業者達や地域のリーダーになっていけるような若い人を選定していくというのが、若い人たちにとって非常にやる気に繋がるのではないか。取材して驚いたのは、若い農業者が大家族を形成していつているということ。自分たちの時代は、核家族を目指して都会に出てきたが、それとは逆に、農村地帯に入って、四世帯の大家族で農業を営んでいるケースがあったり、以前と価値観が違っていると感じる。今後は、そのような若者を選定して、農村地帯の先駆者として後ろ盾して上げることも大事なのではないか。

・海外出展の話が実現することになり、大変うれしく思う。素晴らしい体験になると思うので、受賞された方々も喜んでくださるのではないか。ディスカバーの知名度向上については、例えば、各自治体の担当所管部署にポスターや選定地区一覧を張り出してもらうだけで、知名度は全然変わってくる。自分も事業を実施する立場として、自治体の窓口に出入りするが、他の事業のポスターはあるのにディスカバーのポスターが無いことが残念。また、優良事例についてだが、農政関係以外の事例、例えば商工会や社会福祉法人等についての掘り起こしも必要であると思う。

・地域活性化の優良事例の表彰に13年関わっているが、初めて「ジビエグルメ賞」という、フレンチのカテゴリーを設けていただいた。ジビエ料理は、ヨーロッパやアメリカでは大変なごちそうである。低脂肪、高タンパクとしてトップアスリートは必ず食べるし、鉄分が多いため女性にも人気がある。日本だけがジビエに対する習慣がない。是非、2019年のラグビーワールドカップや2020年のオリンピックに向けて、特にシカやイノシシの肉の普及拡大のチャンスにしてもらいたい。最近

牛肉が手に入らない。それに代わるものとして特に鹿肉の赤身は美味しいので、政府としても全面的、戦略的に PR してもらいたい。今回、ジビエの関係の優良事例は、4 地区ほど対象があったが、特別賞は 1 地区しか選べないため、落選した地区のフォローをお願いしたい。

・ジビエについてもっと発展していくよう、和食にも取り入れて、日本各地に広まるようにできれば素晴らしい。ジビエグルメ賞で選ばれた地区や、チャレンジ賞で選ばれた地区は、長年の素晴らしい活動があって、今回の受賞へと繋がった。今回の晴れの舞台での受賞によって、更に頑張ろうという意識をもってもらえるのではないか。そういう意味で、これまでの第 1 回から第 3 回までの選定地区を含めて、地域のネットワーク化を図り、一度受賞して終わりではなくて、引き続きマルシェやフォーラムを実施していき、ディスカバー選定地区であるという意識や絶えず刺激とディテールを与えることで、日本全体に向けて知名度も上がるし、これを励みにもっと展開しようという意識を持っていただけるのではないか。

・たくさん応募があったというのは良いことだ。長く続いてきた事業であり、地域の中であきらめ感を出さないために、新しい風を興したり、やってみようという意識を高めたりするきっかけとして、この選定の意味があるのではないか。継続は力なりという言葉があるが、どちらかというところ、今の日本の社会の農村におけるあきらめ感のようなものから脱出させるという意味での選定だと思う。これが 5 年後 10 年後どうなるか分からないが、今は、あきらめさせない風をどんどん興すことが大事。今、高校生とか学生がこのような地域おこしに非常に興味を持っていて、地方ではものすごいパワーが生まれつつある。大人顔負けのことが発表されたり、実際に行動していたりする。次回あたりでは、このような取組も取り上げて、地域の誇りのようなものを学生から生み出していき、それが大人の社会につながっていき、地域への波及効果を狙っていければ良いのではないか。高校生や学生の活動も取り入れれば、全国でかなり多くの取組があると思うので、対象にしてもらいたい。

・地域性や若い人などを対象にした特別賞をもう 1 つ増やせば良いのではないか。特別賞の本数は、必ずしも 5 つと決められている訳ではないので、来年に向けて検討していただきたい。

(林座長から、資料及び有識者委員の議論を踏まえ、グランプリ及び特別賞を案のとおり選定することについて提案。委員一同ご了承。)

○閉会

(以 上)